

図書館だより

〒519-0505 伊勢市小俣町本町2番地
電話 0596-29-3900 FAX 0596-29-3902
ホームページ https://iselib.city.ise.mie.jp/
子育て・X (旧 Twitter) @ObataKosodate (全て半角英字)
一般・X (旧 Twitter) @ObataToshokan (全て半角英字)
YA・X (旧 Twitter) @ObataYA (全て半角英字)

小俣図書館 図書館行事 ご案内!

★赤ちゃんおはなし会

11月9日(木) 午前11時~ <2階・会議室>

(定員) 先着10組
(申込み) 11月2日(木) 午前9時から直接または電話で
小俣図書館へ



●たんぽぽおはなし会

11月11日(土) 午後3時~ <2階・会議室>

(定員) 先着20人程度(当日会議室で受け付け)

★クリスマスツリーを飾ろう!

11月25日(土) 午後3時~ <2階・会議室>

クリスマスツリーの飾りを作って、図書館の大きなクリスマスツリーに飾りつけをします。大型絵本『ぐりとぐらのおきやくさま』の読み聞かせも行います。

(対象) 小学生以下(就学前の子どもは保護者同伴)
(定員) 先着15人
(申込み) 11月3日(金・祝) 午前9時から直接または電話で
小俣図書館へ



★書で楽しむ干支文字講座

12月2日(土) 午後2時30分~午後4時

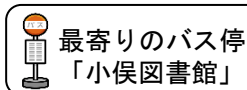
※開場は午後2時15分~ <2階・会議室>
ハガキに干支文字を書き、切り紙を貼ります。紙を使って簡単な壁掛け額も作ります。

(対象) 中学生以上 (定員) 先着10人
(申込み) 11月5日(日) 午前9時から直接または電話で
小俣図書館へ

開館時間 午前9時~午後7時

休館日 毎週火曜日、第2金曜日
年末年始、特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内(うち雑誌は5冊まで)
1団体50冊1か月以内(うち雑誌は25冊まで)



小俣図書館カレンダー

Calendar for November and December 2023. November days 1-30, December days 1-31.

※「★」の行事は、申し込みが必要です。
※行事詳細は小俣図書館のポスター・チラシをご覧ください。
※諸般の事情により、行事が延期または中止になる場合がございます。ご了承ください。

★ふるさと講座②フィールドワーク編
離宮院周辺を歩いてふるさと再発見
~汁谷川沿いの土地と人のかかわり合い~

11月25日(土) 午後1時30分~午後3時30分
(終了予定)

※集合は午後1時15分
※雨天中止 雨天時は、11月26日(日)に延期
今回は小俣の土地の成り立ちと、その特性を知り尽くした人々がいかに土地と関わってきたかについて、歩いて確かめます。

(集合場所) 小俣図書館玄関前 ※距離 5キロ程度
(対象) 一般(中学生以上)
(講師) 田村陽一さん(度会町ふるさと歴史館職員)
(定員) 先着20人程度
(参加費) 100円(レクリエーション保険代など)当日集金
(持ち物) 飲み物など各自必要なもの
※歩きやすい服装でご参加ください。
(申込み) 11月4日(土) 午前9時から直接または電話で
小俣図書館へ



★図書館まつり★

●ボランティアおはなし会スペシャル

①たんぽぽ読書会 11月18日(土) 午前11時~
②紙芝居ピッコの会 11月19日(日) 午前11時~
たんぽぽ読書会と紙芝居ピッコの会による、年に一度のスペシャルおはなし会です。

(場所) ①②ともに1階・児童コーナー



●大上映会

①11月18日(土) 午後2時~
「異動辞令は音楽隊!」 <<119分、一般向け>>

出演:阿部寛、清野菜名ほか ※敬称略

②11月19日(日) 午後2時~
「ふしぎ駄菓子屋銭天堂 3巻 お稲荷せんべい」

<<アニメ・90分、親子向け>>

(場所) ①②ともに2階・ホール
(定員) ①②ともに先着50人程度(当日ホールで受け付け)
※上映内容は変更になる場合があります。

★うたとピアノとえほんの赤ちゃんおはなし会

11月20日(月) 午前11時~ <2階・ホール>

赤ちゃん向け絵本の読み聞かせと歌のおはなし会です。

(対象) 2歳以下の子どもとその保護者
(ピアノ演奏) 角谷ふささん (定員) 先着20組程度
(申込み) 11月6日(月) 午前9時から直接または電話で
小俣図書館へ



●図書館まつり限定「あたり」付きレシート

11月18日(土)~20日(月) <1階・カウンター>

貸し出しレシートに「あたり」がでた方に景品をプレゼントします! (対象) 小俣図書館で貸し出しを行った方

伊勢市立伊勢図書館 11月号 図書館だより



「おはなし会」

《日時》 毎週 土曜日 午後2時30分～

《場所》 1階・おはなしコーナー

11月4日/おにいさん、おねえさん による おはなし会

11月18日・25日

／おはなしプーさん による おはなし会

↓↓↓ 11日は「耳で楽しむおはなし会」です↓↓↓

※申込が必要です。下記参照

えほんの
よみかきせ
かみしばい
など

図書館まつり 11月11日(土)～11月20日(月)

★おはなしプーさんの耳で楽しむおはなし会

《日時》11月11日(土)

①大人向け(中学生以上) 午後1時30分～

②子ども向け(5歳以上) 午後2時30分～

《場所》 2階・視聴覚室

《内容》 絵本や紙芝居を使わずにおはなしをする

ストーリーテリング(素話)のおはなし会です。

語り手のおはなしに想像力をふくらませ、自分だけの

楽しい一時をお過ごしください。

《定員》 各20人(先着順)

《申込》 10月28日(土) 午前9時から、直接カウンター、

電話、FAXで伊勢図書館まで



「あかちゃんえほんのじかん」

「あかちゃんえほんの
じかん」は、
毎月第4木曜日です。

《日時》 11月23日(木・祝) 午前11時～

《場所》 2階・視聴覚室

《内容》 あかちゃんむけの絵本の紹介や、

手あそびなどをします♪



★ 上映会、おはなし会、あかちゃんえほんのじかん
は、申込不要です♪



【展示】

文化サークル展示

《日時》 11月11日(土)～20日(月)

《内容》 折り紙・絵手紙・童話など、図書館の施設を利用
しているサークルの作品展示

【行事】

★おはなしプーさんの耳で楽しむおはなし会

《日時》 11月11日(土)

《内容など》 左記参照

★大人のための図書館ツアー

《日時》 11月19日(日) 午後2時～

《内容》 普段は入ることのできない書庫の見学や本のカバー

(フィルムコート) 掛け体験

《定員》 5人(先着順)

《対象》 高校生以上

《持ち物》 本2冊

《申込》 11月4日(土) 午前9時から直接カウンター・電話・
FAXで伊勢図書館まで

図書館まつり上映会

《日時》 11月12日(日) 午後2時～

(開場: 午後1時45分～)

《定員》 40人(当日先着順)

《内容》 アガサ・クリスティーがおくる不可解な連続殺人事件

「そして誰もいなくなった②」

《上映時間57分》

原作: アガサ・クリスティー 出演: ダグラス・ブース他

*①は11月5日(日)に上映します。下記参照

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週水曜・第2金曜

・年末年始・特別整理期間

貸出 1人10冊 2週間以内(うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊 1ヶ月以内(うち雑誌は25冊まで)

* 伊勢図書館・休館日カレンダー *

11月

12月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30
							31						

※12/29(金)～1/4(木)は年末年始のため休館です。



「上映会」

《日時》 11月5日(日) 午後2時～

(※開場: 午後1時45分～)

《場所》 2階・視聴覚室

《定員》 40人(当日先着順)

「そして誰もいなくなった①」

《上映時間111分》

施設利用抽選会(1月～3月分)

《日時》 11月3日(金・祝) 午前10時～

(開場: 午前9時30分～)

《場所》 2階・視聴覚室

★の行事は、事前申込みが必要です。

※行事詳細はポスター・チラシをご覧ください。

※諸般の事情により行事が延期または中止になる場合があります。
ご了承ください。



本のごあんない

〔一般書〕 日本のもものづくり

手から手へ受け継ぎ、精神と技を後世に引き継いできた日本の手仕事の職人さんたち…。

人々の暮らしに必要なものを作り続けている手仕事にたずさわる職人さんのことがわかる本を紹介します！

◎日本建築を作った職人たち 寺社・内裏の技術伝承（浜島一成／著 吉川弘文館）

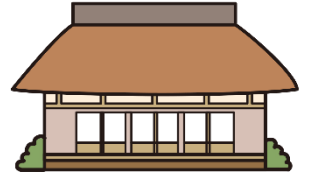
◎民藝と手仕事 長く使いたい暮らしの道具と郷土玩具 61×基礎知識×楽しむ旅

（暮らしの図鑑編集部／編 翔泳社）

◎47 都道府県・伝統工芸百科（関根由子／〔ほか〕著 丸善出版）

◎てしごと おんな職人日乗（あさのあっこ／〔ほか〕著 徳間書店）

◎人形姫（山本幸久／著 PHP 研究所）



〔児童書〕 「あつまれ！ はたらくるま」

道路や家をつくる、火を消す、病気の人を助ける、たくさんの荷物をはこぶなど
私たちのまわりにはたくさんの種類のくるまがはたらいています。

そんなはたらくるまが活躍するおはなしや図鑑、工作の本などをたくさん紹介します！



★ちいさいしょうぼうじどうしゃ（ロイス レンスキー／ぶん・え わたなべしげお／やく 福音館書店）

★はたらくるまみちをつくる（こもりまこと／さく 教育画劇）

★ネコのタクシーアフリカへ行く（南部和也／さく さとうあや／え 福音館書店）

★世界の働くくるま図鑑：上・下巻（スタジオタッククリエイティブ）

★おりがみとあきぼこでのりもの きったりはったり（いまいみさ／著 毎日新聞社）



〔YA〕 どこまで知ってる？ アジアの国々

アジアと聞いて思い浮かべるのはどんな国？ 中国、韓国、台湾といったご近所の国や、近年ブームになっているタイなどなど…魅力的な国がたくさん！

今月は、食、言葉、文化など、様々な入り口からアジアの国々を知ることができる本を特集します！

〔一般書〕

◎アジアの麺（ワタナベマキ／著 主婦と生活社）

◎タイ語の目 文字の読み書きをしっかりと学ぶ（山田均／著 白水社）



〔児童書〕

◎チェリーシュリンプ わたしは、わたし（ファンヨンミ／作 吉原育子／訳 金の星社）

◎三国志が好き！（渡邊義浩／著 岩波書店）

◎台湾の若者を知りたい（水野俊平／著 岩波書店）

※伊勢・小俣図書館のどちらかに所蔵がある本です。
ご利用館にない場合は、予約ができます。

しめ縄・しめ飾り

しめ縄の始まりは、『古事記』または『日本書紀』にみることができる。それは、あの有名な天岩戸の話である。天岩戸から出た天照大神が二度とお隠れにならないようにその戸口に張り巡らせて封印をした縄というのが、「尻久米縄」と呼ばれる縄で、この言葉が転じて今の「しめなわ」になったという。

もともと正月のしめ縄は「家屋全体に縄を張り巡らせていた」といい、これが徐々に簡素化して、玄関部だけコンパクトに留めたのが今のしめ縄の原型という話も一説にある。今のしめ飾りは、このしめ縄に様々な願掛けを込めた装飾が施されて出来上がったものである。

伊勢のしめ飾りは、四手、譲葉、柊、裏白、橙の実、真ん中には「蘇民将来子孫家門」と書いた札がついている。この札の由来が、伊勢地方の民話にある。スサノオノミコトが二見町の松下を通りかかったところ、日も暮れ風雨も強くなったので、とある人家を訪ねて一夜の宿を頼んだ。主人の巨旦将来は富者だったが、欲深く無慈悲な男で、ミコトの申し入れを断った。ミコトはしかたなく、別の一軒を訪ねて頼むと、そこは巨旦の兄、蘇民将来の家だった。蘇民は貧乏暮らしだったが、心優しい男で快くミコトを迎え入れた。ミコトはこれを徳として、蘇民に流行り病を免れる方法を教え、さらに“蘇民将来子孫の家”と木札をかかげておくようにと伝えた。

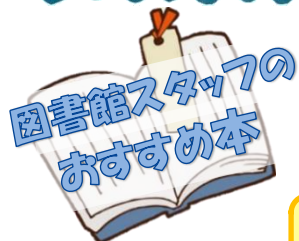
「笑門」と書く家が多くなってきているが、これは「蘇民将来子孫家門」が略されて「将門」となり、これが平将門と関係するようなので「笑門」となったそう。裏には海女の厄除けのセーマン（五芒星）やドーマン（九字紋）が記してある。

まもなく12月。今年もまた、しめ飾りを準備する時期がやって来る。

- 伊勢人・物・事そして自然（浜辺恒男／著 アイブレーン）
- 三重県謎解き散歩 伊勢神宮と式年遷宮、熊野古道、伊賀上野城から海女、松阪牛、伊勢商人、ヤマトタケルまで（矢野憲一、五十鈴塾／編 新人物往来社）
- 知っておきたいお正月の手引書（東條英利／著 勉誠出版）



今月は小俣図書館のスタッフ2人が本を紹介します。



一般書

31編の詩をめぐる、今を生きる
あなたに寄りそう物語

「ポエトリー・ドッグス」

（斉藤倫／著 講談社）

ふらりと入ったバーで僕を迎えてくれたのは犬のマスター。このバーでお酒とともに供されるのはおつまみ、ではなく「詩」だった。バーに通いマスターおすすめの詩を味わううちに僕は心の奥にしまいこんでいたものと向き合っていく…。詩なんて難しそう、と思っている方にもぜひ読んでほしい一冊。

Q.僕が2回目にこのバーで注文したお酒は何？



答えは、本を読んでみてください！



一般書

「新編 日本の面影 1・2」

（ラフカディオ・ハーン／著 池田雅之／訳 KADOKAWA）

ハーン（のちに小泉八雲と改名）の『知られぬ日本の面影』の翻訳アンソロジー。ハーンが1890年に初めて日本に来た日のことから始まり、各地で出会った日本人々や生活、そして怪談など、明治期の日本の様子が描かれている。2に収録された『思い出の記』による、妻セツから見たハーンの姿も興味深い。



外国人の著者から見た、明治期の日本

Q.「あめ一湯」は何を売っている人の呼び声？